

# ナレッジスター冬期講習 テキスト【国語】

担当講師：岡田 泰典

## 冬期講習2日目

今日やること

- ・「理由型」の解説
- ・「心情把握型」の解説
- ・空所補充問題の解き方

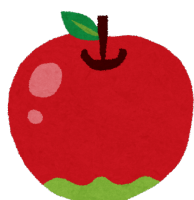
### ◆理由型【なぜ・理由は】

理由型とは読んで字のごとく、そうなった理由を答える問題です。説明よりもまずは例題を解いてみましょうか。

#### 例題1（10秒）

赤くて、甘くて、丸くて青森名産の果物が好きだ。とありますが、なぜか答えなさい。

答え↓



さあ、どうでしたか？できましたでしょうか。これは「言い換え型」で扱った文を使っていますが、難易度は無限大です。というよりも解くことはできません。ごめんなさい。意地悪でしたね。

同じ文に線が引かれていても、設問によって答えるべきものは全く異なります。今回の場合、「りんごが好きなのはなぜか」と聞かれても、前後の文が無いため答えられません。つまり、理由は傍線部を読んだ後に、その理由を別の箇所から探してこなければいけなかったり、文脈から筆者がそのように書いた理由を推定したりしなければいけません。では例題に移りましょう。

例題2 (5分)

自然資源の利用にかんして、長い、歴史的な経験を通じて知識が形成され、世代からつぎの世代に継承されていった。自然環境にかんする知識と、その世代間を通ずる伝達によって、文化が形成されると同時に、文化によって新しい知識が創造されてゆく。何世代も通じて知識が伝達されてゆくプロセスで、社会的制度がつくり出される。

**B**、日常的ないし慣行的な生き方が、社会的制度として確立し、一つの文化を形成することになる。自然と人間との間の相関関係がどのような形で制度化されるかによって、人間と人間との間の社会的関係もまた規定されることになる。どのような自然資源を、どのようなルールにしたがって利用すべきかが文化の中心的な要素となる。したがって、<sup>(4)</sup>年長者の教示ないしは指示に重点が置かれ、自然資源の利用は、社会のすべての構成員に対して公正に、また利用可能となるような配慮が、どの伝統的社会についても充分払われている。

問5 本文中に、年長者の教示ないしは指示に重点が置かれ、とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

- ア 自然資源を同年代の構成員に平等に配分するためには、経験豊富な年長者の権威に頼らざるをえないから。
- イ 自然資源の利用にかんする知識は文化として蓄積され、年長者を中心に世代を超えて伝達されてきたから。
- ウ 伝統的社会での制度にかんする知識や慣行は、それに精通した年長者により正確に伝承されるべきだから。
- エ 自然資源が涸渇すると伝統的社会の存続は難しくなるが、年長者には苦難を克服してきた知恵があるから。

答え↓

どうだっただろうか？解説をしていこう。大事なことは小手先のテクニックに頼らないこと。「『だから』があるときはこう」とか、「『しかし』とあるならこう」そんなものはまやかして。残念ながら文章そのものを公式化することはできない。そうではなく普通に日本語として意味を汲み取ろう。

自然資源の利用にかんして、長い、歴史的な経験を通じて知識が形成され、世代からつぎの世代に継承されていった。自然環境にかんする知識と、その世代間を通ずる伝達によって、文化が形成されると同時に、文化によって新しい知識が創造されてゆく。何世代も通じて知識が伝達されてゆくプロセスで、社会的制度がつくり出される。

**B**、日常的ないし慣行的な生き方が、社会的制度として確立し、一つの文化を形成することになる。自然と人間との間の相関関係がどのような形で制度化されるかによって、人間と人間との間の社会的関係もまた規定されることになる。どのような自然資源を、どのようなルールにしたがって利用すべきかが文化の中心的な要素となる。したがって、年長者の教示ないしは指示に重点が置かれ、自然資源の利用は、社会のすべての構成員に対して公正に、また利用可能となるような配慮が、どの伝統的社会についても充分払われている。

ア、自然資源を同年代の構成員に平等に配分するためには、経験豊富な年長者の権威に頼らざるをえないから。

イ、自然資源の利用にかんする知識は文化として蓄積され、年長者を中心に世代を超えて伝達されてきたから。

ウ、伝統的社会での制度にかんする知識や慣行は、それに精通した年長者により正確に伝承されるべきだから。

エ、自然資源が涸渇すると伝統的社会の存続は難しくなるが、年長者には苦難を克服してきた知恵があるから。

どうだったかな？では次の問題にいつてみましょう。

例題3 (5分)

ダンバーによれば、ゴシップはサルの群れにおける毛づくろいと同じ役割を果たすと言います。サルの毛づくろいは、友好的な関係を保ったり、壊れかかった社会関係を修復したりするのに役立つことが分かっています。ヒトの場合には、毛づくろいの代わりに言葉を使って「今ここにいない誰か」についてのうわさ話をする<sup>(3)</sup>ことが、互いのきずなや連帯感を強めるという主張です。

**B**、ゴシップの働きはそれ<sup>(3)</sup>だけではありません。ゴシップの一つ一つの情報は面白おかしいい加減なものであっても、それが積み重なると、ある人の「人間性」を露<sup>(あ)</sup>わにするケースがしばしば生まれ、それがその人の「評判」となります。「評判の良い人」とされるか「評判の悪い人」とされるのかは、その人の利他性によるところが大きいでしょう。なかでも、相手からの直接の見返りが期待できないような場面において、相手に親切にするか、あるいは手のひらを返したように冷淡になるかは、その人のもっている「本当の利他性」の程度をよく表す指標と言えるでしょう。とくに当の本人が計算せずに表出した行動、たとえば、誰も<sup>(4)</sup>見ていないと思つてやつた行動は、情報価が高いと言えます。

問5 本文中に、誰も<sup>(4)</sup>見ていないと思つてやつた行動は、情報価が高いと言えます。とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

- ア 誰もいないところで取つた行動には、その人の能力がはつきり表れていて、良い評判を得るための重要な指標になると考えられるから。
- イ 誰かに見られていることを計算に入れていない行動には、その人の本性が表れていて、人間性を評価するための指標として有効だから。
- ウ 誰かに見られているとは知らずにする無意識の行為には、その人自身も気づかない本心が表れていて、評判を良くする効果が高いから。
- エ 誰もいないところとする親切な行為には、その人の真の人間性がでていて、見返りを期待しない純粹な善意として高く評価されるから。

## 板書

傍線部そのものを理解したら、理由を探しに目を飛ばしましょう！

ア、誰もいないところでとった行動には、その人の能力がはっきり表れていて、良い評判を得るための重要な指標になると考えられるから。

イ、誰かに見られていることを計算に入れていない行動には、その人の本性が表れていて、人間性を評価するための指標として有効だから。

ウ、誰かに見られているとは知らずにする無意識の行為には、その人自身も気づかない本心が表れていて、評判を良くする効果が高いから。

エ、誰もいないところとする親切的な行為には、その人の真の人間性がでていて、見返りを期待しない純粹な善意として高く評価されるから。

難易度の高い問題は理由型に多いです。マスターして周りとの差をつけましょう！

◆心情把握型【気持ち・様子として・どういうことか】

心情把握は小説文限定で出題される形式です。実は心情把握は言い換え型の親戚のようなものなのですが、今回は分かりやすく別分類としています。具体的な問題を解いてみましょう。

例題 1・2・3 (15分)

小学四年生の香音は南先生にピアノを習い、有名なコンクールの地区大会に出場したが、全国大会には進めなかった。その後、香音はなぜかピアノが弾けなくなる。レッスンに行けず歩いていた香音に、オルゴール店の店員が声を掛けた。彼は、どれでも好きなオルゴールを一つくれると言った。

「よかつたら、そちらでどうぞ。」

店員さんが奥のテーブルをすすめてくれた。香音は椅子に腰かけて、オルゴールをひとつひとつ聴いてみた。底についているぜんまいを回すと音が鳴る。知っている曲もいくつかあったけれど、そうでないもののほうが多かった。聞き覚えのないメロディーは耳にひっかからずに流れ去り、いさよ消えていく。

透明な箱の中には、表面に細かいぶつぶつがついた円柱形の部品と、櫛くしの歯のようなかたちのひらたい部品が、隣りあわせに配置されている。円柱の突起が歯をはじき、音が出るしくみらしい。

ピアノみたいだ。思いあたり、(1)反射的に目をそらした。なめらかに繰り返されていた旋律が、少しずつぎこちなく間延びして、ついにとまった。先週、コンクールが終わってはじめてのレッスンで、南先生は心配そうに言った。

「香音ちゃん、大丈夫？ 音に、元気がなくなってる。」

香音は絶句した。

「香音ちゃんは本当によくがんばったわ。がんばりすぎて、ちょっと疲れちゃったのかもね。無理しないで、しばらくゆっくりしてみたら？」  
いたわるように、先生は続けた。

「誰もが一位になれるわけじゃない。ここはそういう世界だから。でも、一位になるためだけに弾くわけでもないのよ。」  
あれから一週間、香音はほとんどピアノを弾いていない。

どうしても、ピアノの前に座ろうという気分になれなかった。ピアノを弾きはじめて六年間、こんなことは一度もなかった。

全国大会に進めなかったから、落ちこんでいるわけじゃない。それでやる気を失くしたわけでも、自棄やけになっっているわけでもない。ただ、自分でも気づいてしまったのだ。わたしの音には元気がない。そんな音を響かせることも、誰かに聴かせることも、耐えられない。

この機会に別の先生に習ってみたらどう、と昨日お母さんに言われた。

黙って首を横に振っただけですませたのは、うまく伝えられる自信がなかったからだ。考えを言葉で言い表すのは、すごく難しい。音楽を使えば、と香音はいつもどかしく思う。楽器でうれしい音や悲しい音を鳴らして伝えられたら、わかりやすくして簡単なのに。

南先生は悪くない、と本当は言い返したかった。入賞できなかったのは先生のせいじゃない。わたしの力が足りなかった。だからこそ、がんばらなきゃいけないのに。がんばって練習して、上手になって、お母さんや先生を喜ばせたいのに。

「気に入ったもの、ありましたか。」

店員さんから声をかけられて、香音はわれに返った。聴き終えたオルゴールが、テーブルの上にはばらばらと散乱している。

「すみません、ちょっとまだ。」

香音はひやひやしてうつむいた。気を散らしてばかりで、身を入れて選んでいないのがわかってしまっただろうか。ただで持っていていいと気前よくすすめてくれたのに、気を悪くしたのかもしれない。

「少々、お待ち下さい。」無言で香音を見下ろしていた店員さんが、唐突に言った。

耳もとに手をやって、長めの髪をかきあげる。かたちのいい左右の耳に、透明な器具のようなものがひっかかっていることに、香音ははじめて気づいた。

彼はてきぱきと器具をはずし、テーブルの上に置いた。ことり、と軽い音がした。素材はプラスチックだろうか。めがねの端っこをぱつんと切り落としたような、ゆるいカーヴのついたつるの先に、耳栓に似たまるい部品がくっついている。

変わった器具について見入っている香音を置いて、店員さんは棚のほうへ歩いていった。新たなオルゴールをひとつ手にとって、戻ってくる。

「これはいかがですか。」

自らぜんまいを回してみせる。流れ出したメロディーを聴いて、あつと香音は声を上げてしまった。

「讚美歌？」ついさつき、教会でひさびさに思い返していた曲だった。聖歌隊の十八番で、日曜礼拝でたびたび伴奏したのだ。

安らかな日々だった。コンクールのことも、南先生のこと、知らなかった。鍵盤に指を走らせるのが、ただただ楽しかった。幼稚園の先生にも、友達やその親たちにも感嘆され、聖歌隊からは感謝され、礼拝の参列者の間でも評判だった。香音ちゃんのピアノは神様の贈りものだ、と園長先生は



感慨深げに言ったものだ。大切にしなさい。その力はみんなを幸せにするからね。

オルゴールがとまるのを待って、香音は口を開いた。

「これ、下さご。」

「よかった。実は僕も、耳は悪くないんです。」

店員さんは目を細め、香音にうなずきかけた。

「すごくいい音で鳴っている。」

いい音ね。<sup>b)</sup>不意に、南先生の声が香音の耳もとで響いた。ぎゅう、と胸が苦しくなった。

「紙箱があるので、入れますね。」

店員さんが腰を上げた。耳の中でこだましている先生の声は気にしないようにして、香音も笑顔をこしらえる。

そこで突然、彼が眉をひそめた。「ん？」

中腰の姿勢でしげしげと見つめられ、香音はどきまぎして目をふせた。作り笑いが失敗していただろうか。

「あともうひとつだけ、いいですか。」

<sup>2)</sup>香音の返事を待たずに、店員さんはせかせかと棚のほうへ歩いていく。

店を出ると、香音は急いで先生の家へ向かった。

途中から、<sup>3)</sup>ほとんど駆け足になっていた。門が見えてきたときには汗だけで、息がはずんでいた。そのまま駆け寄ろうとして、つんのめりそうになった。道の先に、香音に負けず劣らず息をきらして走ってくる人影が見えたのだ。

「香音！」見たこともないようなこわい顔をして駆けてきたお母さんは、立ちすくんでいる香音の前で仁王立ちになった。

香音は無言でうなだれた。足もとのくろぐろとした影が、穴みたいに見える。いっそ飛びこんでしまいたい。

「どれだけ心配したと思ってるの？」

頭の上から降ってきた声は、頼りなく震えていた。

香音はびっくりして顔を上げた。お母さんは怒っているというよりも、途方に暮れたような顔つきになっていた。

「先生も心配してらしたわよ。今までどこにいたの？」

香音がレッスンに来ないと電話を受けて、探しにきたらしい。

「ごめんなさい。」

「ねえ、香音。ピアノ、弾きたくないの？」

香音は目をみはり、お母さんを見上げた。

「さっき、電話で先生と少しお話ししたの。ちょっとお休みしてもいいんじゃないかって。先週、香音ともそういう話をしたんだって？」

<sup>(4)</sup>お母さんが膝を折って香音と視線を合わせた。

「お願い。正直に教えて。お母さん、怒らないから。香音のやりたいようにやってほしいと思ってる。」

肩からかけたかばんを、香音は手のひらで軽くなでた。底のほうがぼこりとふくれているのは、角ばった紙箱のせいだ。

店員さんが新しく棚から出してきてくれたオルゴールを聴いて、香音は息をのんだ。パツハでも讚美歌でもない、けれどよく知っている曲が、またもや流れ出したのだった。

「ピアノを習っておられるんですか。」店員さんは優しい声で言った。

「は。。」

でも、と言い足すなんて、ふだんの香音なら考えられないことだった。見ず知らずのおとなに、個人的な打ち明け話をするなんて。

このひとになら、わかってもらえるのではないかと思っただ。香音の胸の奥底で響いている音楽をみごとに聴きとってみせた、彼になら。

コンクールで落選したこと、ピアノを弾く氣力を失っていること、今日レッスンをすっぽかしてしまったことまで、つかえつつかえ話した。店員さんはなにも言わずに耳を傾けてくれた。それから、ふたつのオルゴールをテーブルに並べ直した。

「どちらでも好きなほうを、どうぞ。」

香音は左右のオルゴールを見比べた。洗いざらい話したせいとか、いくらか心は軽くなっていた。

深く息を吐き、耳をすます。

「こっちを下ささい。」

新しく出してもらったほうを、指さした。店員さんが満足そうに目もとをほころばせ、香音が選んだオルゴールを手にとって、ぜんまいを巻いた。素朴なバイエルの旋律が、香音の耳にしみとおった。

紙箱に入れてもらったオルゴールをかばんにしまうと、香音はお礼もそこそこに店を飛び出した。無性にピアノを弾きたかった。一刻も早く鍵盤にさわりたいくてたまらなかった。

お母さんの目をじっと見て、香音は口を開く。

「わたし、ピアノを続けたい。」

問2 本文中に、反射的に目をそらしたとあるが、この部分の説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

- ア ピアノを弾いている南先生を思い出しそうになって、別の何かを見ようとした。
- イ 自分が弾けなくなっているピアノを連想させるものから、思わず視線を外した。
- ウ コンクールでの失望を思い出し、ピアノの嫌な記憶を急いでかき消そうとした。
- エ ピアノのレッスンを無断で休んだことに気づかれそうで、とっさに顔を背けた。

答え↓

問4 本文中に、ほとんど駆け足になっていたとあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

- ア ピアノを続ける決意が固まり、すぐにでも弾きたいと感じて一刻も早く南先生の家に行きたかったから。
- イ やっぱりピアノを続けたい、先生を替えたりしないでほしいと今すぐお母さんをお願いしたかったから。
- ウ 今日のレッスンを休んでしまったわけを南先生に知られてしまう前に、急いで教室に戻りたかったから。
- エ なぜ自分がピアノを弾きたいのかわからなくなって、お母さんに正直な気持ちを聞いてほしかったから。

答え↓

問5 本文中に、お母さんが膝を折って香音と目線を合わせた。<sup>(4)</sup>とあるが、その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

- ア レッスンを休んだ香音を強く叱っても無意味だということに気づき、優しく教え諭そうとする母の心情が表れている。
- イ 思っていたよりも香音が幼いことに気づき、多くを求めず簡単なことから理解させようとする母の心情が表れている。
- ウ 香音の気持ちをあまり考えてこなかった自分の過ちに気づき、娘の本当の思いを知ろうとする母の心情が表れている。
- エ 自分を心から恐れている香音の気持ちに気づき、娘の心に寄り添って恐怖を和らげようとする母の心情が表れている。

答え↓

## 問2 板書

どうだったでしょうか。「反射的に目をそらした」から読み取れる心情を想像することから始めなければいけません。国語に想像を持ち込んじゃいけないって教わったって人もいるかもしれませんがね。

それは意見を持ち込んではいけないという意味です。泣いている人がいたら悲しんでいますよね。本文中に悲しいとはどこにも書いていないから、分からないと答えるのは変です。常識的に考えて、言動（人の発言や行動）から考えられる心情はある程度、想像して推定しなければいけません。「反射的に目をそらした」人間の心情を想像した上で、文脈を交えながら選択肢を絞っていきましょう

反射的に目をそらした

ア、ピアノを引いている南先生を思い出しそうになって、別の何かを見ようとした。

イ、自分が弾けなくなっているピアノを連想させるものから、思わず視線を外した。

ウ、コンクールでの失望を思い出し、ピアノの嫌な記憶を急いでかき消そうとした。

エ、ピアノのレッスンを無断で休んだことに気づかれそうので、とっさに顔を背けた。

#### 問4 板書

ア、ピアノを続ける決意が固まり、すぐにでも弾きたいと感じて一刻も早く南先生の家に行きたかったから。

イ、やっぱりピアノを続けたい、先生を替えたりしないでほしいと今すぐお母さんをお願いしたかったから。

ウ、今日のレッスンを休んでしまったわけを南先生に知られてしまう前に、急いで教室に戻りたかったから。

エ、なぜ自分がピアノを弾きたいのかわからなくなって、お母さんに正直な気持ちを聞いて欲しかったから。

## 問5板書

ア、レッスンを休んだ香音を強く叱っても無意味だということに気づき、優しく教え諭そうとする母の心情が表れている。

イ、思っていたよりも香音が幼いことに気づき、多くを求めず簡単なことから理解させようとする母の心情が表れている。

ウ、香音の気持ちをあまり考えてこなかった自分の過ちに気づき、娘の本当の思いを知ろうとする母の心情が表れている。

エ、自分を心から恐れている香音の気持ちに気づき、娘の心に寄り添って恐怖を和らげようとする母の心情が表れている。

◆空所補充問題

空所補充問題は↓

このような問題は今まで解いてきたことはあると思います。まずは実際に解いてみましょう。  
後でこのページに板書のために戻ってきます。

板書

例題 1 (7分)



自然環境を経済的に考察しようとするときに、まず留意しなければならないのは、自然環境に対して、人間が歴史的にどのようなかたちで関わりをもってきたかについてである。この問題は、広く、文化をどのようにとらえるかに関わるものであって、狭義の意味における経済学の枠組みのなかに埋没されてしまつてはならない。

「文化」というとき、伝統的社会における文化の意味と、近代的社会において用いられる意味との間に本質的な差違が存在することをまず明確にしておきたい。

一八五四年、アメリカ・インディアン(注1)の酋長シヤトル(注2)がいったといわれるつぎの言葉は象徴的である。

「白人がわれわれの生き方を理解できないのはすでに周知のことである。白人にとつて、一つの土地は、他の土地と同じような意味を持つ存在ではない。白人は夜忍び込んで、土地から、自分が必要とするものを何でもとつてしまふ余所者(よせもの)にすぎないからである。白人にとつては、大地は兄弟ではなく、敵である。一つの土地を征服しては、また次の土地に向かつてゆく。……白人は、自らの母親でも、大地でも、自らの兄弟でも、また空までも、羊や宝石と同じように、売つたり、買つたり、台なしにしまつたりすることのできる『もの』としか考えていない。白人は、貪欲(どんよく)に、大地を食いつくし、あとには荒涼たる砂漠、たけしか残らない。」

この問題について、一九九四年七月、ナイロビで開催されたIPC(3)(気象変動に関する政府間の協議機関)で発表されたアン・ハイデンライヒとデヴィッド・ホールマンの論文には含蓄深い考察が展開されている。

ハイデンライヒとホールマンは、文化について、二つの異なつた考え方が存在することを指摘する。

マサイ族の若者が「文化」というときには、同年代の若者たちのことを想起し、伝統的な制度のもとで、社会がどのように組織され、自然資源がどのように利用されているかに思いをいたす。

A、北ヨーロッパの人々が「文化」というときには必ず、芸術、文学、音楽、劇場を意味している。環境の問題を考へるとき、宗教が中心的な役割を果たす。宗教は、自然を創り出し、自然を支配する超人間的な力の存在を信じ、聖なるものをうやまふことだからである。

自然環境が文化、宗教とどのような形で関わっているかによって社会全体が規定されているといつてもよい。また、ある一つの社会において、自然とみなされているものが、他の社会では、「文化」と考えられる。またケニアやタンザニアのマサイ族には、宗教に対応する言葉は存在しなかつた。宗教は自然そのものと同一視されていたからである。伝統的社会においては、「文化」は、自然、宗教、文化を総体としてとらえたものになつている。

自然と人間との間の相関関係が具体的なかたちで表現されるのは、自然資源の利用という面においてである。伝統的社会では、人やものの移動がきわめて限定されているため、生活を営む場所で利用可能な自然資源に頼らざるをえない。したがつて、これらの自然資源の涸渇(こかつ)はただちに、伝統的社

会の存続自体を危うくする危険を内在している。伝統的社会の文化は、地域の自然環境のエコロジカルな諸条件にかんして、くわしい深い知識をもち、<sup>(注2)</sup> エコ・システムが持続的に維持できるように、その自然資源の利用にかんする社会的規範をつくり出してきた。<sup>(注3)</sup>

自然資源の利用にかんして、長い、歴史的な経験を通じて知識が形成され、世代からつぎの世代に継承されていった。自然環境にかんする知識と、その世代間を通ずる伝達によって、文化が形成されると同時に、文化によって新しい知識が創造されてゆく。何世代も通じて知識が伝達されてゆくプロセスで、社会的制度がつくり出される。<sup>(注4)</sup> B、日常的ないし慣行的な生き方が、社会的制度として確立し、一つの文化を形成することになる。

自然と人間との間の相関関係がどのような形で制度化されるかによって、人間と人間との間の社会的関係もまた規定されることになる。どのような自然資源を、どのようなルールにしたがって利用すべきかが文化の中心的な要素となる。したがって、<sup>(注4)</sup> 年長者の教示ないしは指示に重点が置かれ、自然資源の利用は、社会のすべての構成員に対して公正に、また利用可能となるような配慮が、どの伝統的社会についても充分払われている。

伝統的社会では、自然環境にかんする知識は、<sup>(注4)</sup> スピリチュアリティとの関連において形成されている。C、<sup>(注5)</sup> シャーマニズムは、三千万人を超えるアメリカ・インディアンが信じていた宗教であったが、それは、自然資源を管理し、規制するためのメカニズムであって、その持続的利用を実現するための文化的伝統であった。

問1 空欄 A、 B、 C に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

- ア A Ⅱだが B Ⅱやがて C Ⅱつまり
- イ A Ⅱところが B Ⅱそれゆえに C Ⅱさらに
- ウ A Ⅱいつぼう B Ⅱまた C Ⅱすなわち
- エ A Ⅱしかし B Ⅱそして C Ⅱたとえば

答え↓